

第4次青森県循環型社会形成推進計画原案に係る委員意見等整理表

素案 頁	章・節・項 (素案)	意見提出者	意見内容	対応案
1	全体	鈴木(拓)委員	図に関して以下の修正をお願いします。 ・p.27縦軸キャプションの文字化け、軸線が不鮮明 ・棒グラフ、円グラフ 解像度が低いようです	27頁のグラフについては修正します。 なお、完成した計画の冊子作成の際は、図表等は全て作成し直すこととしています。
2	全体	鈴木(拓)委員	低炭素について 現在は、低炭素から脱炭素へ用語の置換が進んでいます。 上位計画との整合させるため低炭素としているのでしょうか。 脱炭素社会を目指すしていくことは世界的潮流のため、計画に脱炭素の文言を加えてもいいのではないのでしょうか。	国計画等で用いている表現と整合を取る必要があるため、現行案のままとさせていただきたいと考えていますが、国や本県における議論の深まりを踏まえたくて、修正することについて検討します。
3	第1章 第1節	鈴木(拓)委員	地域循環共生圏について 第1節 策定の趣旨において、「地域循環共生圏」について言及していますが、姿勢としてはやや弱い印象を受けました。環境省の第五次環境基本計画では、目指すべき社会の姿として当該事項について言及しています。このことを踏まえ、第1節 策定の趣旨では、「地域循環共生圏」の構築に総合的、長期的に取り組み明確な姿勢を打ち出してもよいのではないのでしょうか。 なお、委員会において地域循環共生圏の理念を計画にどのようなに反映すればよいか議論できれば幸いです。	地域循環共生圏については、本県が目指す循環型社会の4つのイメージのうちのひとつとして第3章第1節2項に明示していることから、計画策定の趣旨の部分については、現行案のままとさせていただきたい。
4	第1章 第1節	鈴木(拓)委員	解説 地域循環共生圏 3行目・・・地域間で補完し合うのか。	御意見を踏まえ、当該部分の記載を以下のように修正します。 (原案) 地域の特性に応じて…(略)…つながりを深め、地域間で補完し合う圏域を形成し、資源の循環、生物多様性の確保、低炭素化、地域の活性化等を目指すというものです。 (修正案) 地域の特性に応じて…(略)…つながりを深め、それぞれの地域が相互に補完し合う圏域を形成し、資源の循環、生物多様性の確保、低炭素化、地域の活性化等を目指すというものです。

第4次青森県循環型社会形成推進計画原案に係る委員意見等整理表

素案 頁	章・節・項 (素案)	意見提出者	意見内容	対応案
5 3p	第1章 第1節	鈴木(拓)委員	解説 3R 3Rの趣旨を踏まえた説明にしていたくないでしょうか。	御意見を踏まえ、当該部分の記載を以下のように修正します。  (原案) リデュース(Reduce):発生抑制、リユース(Reuse):再使用、リサイクル(Recycle):再生利用の3つの頭文字をとったもので、1980年代中頃にアメリカで使用されたのが始まりとされています。(下略)
6 40p	第3章 第1節	鈴木(拓)委員	物質循環が資源循環と同じ意味で使用されているならば、資源循環に文言を統一した方がよいのでは。	(修正案) 廃棄物等による環境への負荷低減に向けた、リデュース(Reduce:発生抑制)、リユース(Reuse:再使用)、リサイクル(Recycle:再生利用)の3つの取組の頭文字をとったものであり、取組を進める際の優先順位としては、負荷低減への寄与が大きい順に、リデュース、リユース、リサイクルの順が基本原則となるものです。(下略)  「物質循環」は、自然の中における物質循環と、その一部を構成する社会経済システムにおける物質循環の双方を包含した広い意味での循環を示す場合に使用しています。 一方で「資源循環」については、「物質循環」でも、社会経済システムにおける物質循環を示す場合に使用しています。

第4次青森県循環型社会形成推進計画原案に係る委員意見等整理表

素案 頁	章・節・項 (素案)	意見提出者	意見内容	対応案
7 41p	第3章 第1節 第2項	鈴木(拓)委員	2 地域特性を活かした地域循環共生圏 地域循環共生圏を構築することが、結果としてSDGsの達成 (あるは改善)につながることについて言及した方がよいと思 います。	御意見を踏まえ、当該部分の記載を以下のように修正しま す。 (原案) これにより、資源の循環、生物多様性の確保、低炭素化、地 域の活性化等が実現されるとともに、その形成のために様々 な主体が連携することで、地域の共同体の再生や、地域の課 題も同時に解決されていきます。また、低炭素化の実現により 地球温暖化対策にもつながっていくものです。 (修正案) これにより、資源の循環、生物多様性の確保、低炭素化、地 域の活性化等が実現されるとともに、その形成のために様々 な主体が連携することで、地域の共同体の再生や、地域の課 題も同時に解決されていくほか、低炭素化の実現により地球 温暖化対策にもつながるなど、広くSDGsの達成につながつ ていくものです。
8 49p	第4章 第1節 第2項	内山委員長	(1)プラスチック資源循環の推進 JAアオレンではりんごの搾りかすなど、植物性残さを活用し てバイオマスプラスチックの原材料の生産を開始している。 県内でこのような事業が展開され、発展していくことは望まし いことであり、プラスチックに関する資源循環に資するものと 考えられるので、計画において事例として取り上げではどう か。	当該事例のような県内における先進事例等のトピック的な話 題については、コラムとして掲載することとして検討したいと考 えています。